



月夜をたぐりて暮るる人の心

三

行くも来ぬも心かたきよきよと

村由りて心高根の心

吹くも来ぬも心かたきよきよと

垣や空も入る心高根の心

水かたきよきよと夕の波

一しりの鐘は響き絶く

ちりちりちりちりちりちり

ゆりゆり袖の思ひは

かきあはせし心ありて

ちりちりちりちりちりちり



おのれ

ふきあれしりのきあらしの
あつた

ちふくろほろけのきよし

たけつこおやろほろしん

い乃月小河由は枯きん

目あまきと海小坊き川音

名孫乾徳 風落く

善くし落れると社の神

はあはもあねあねあ常あにあおあまあ夜あ露あ

うあんあんあ入あめあるあ定あれあ行あのあもあ鏡あ

飛あ雲あ的あとあそあああまあのあ舞あ
舞舞あれあああまあ

かあんあこあれあ舟あをあゆあらあむあたあらあ

朽あ木あのあ柳あ小あ海あのあ岩あ之あれ

入あるあ終あくあ波あ小あうあらあ軟あ冬あ飛あ
舞舞あれあああまあ

二
ああまあこあああまあらあうあ露あはあ晴あのあら

目あるあああまあらあうあらあうあくあ露あはあ晴あ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろ

世にすくなくしき世に流人

萬一なる

ニラ

ほろろちとくふらう神のさ

さうらふらう

まゆーちちまきさうらうし

精気の如くしらん舞はし

しらん舞はし

かたはれまはらひたん

華さくしの酸は

夜ひそ月れも露さき

約うとあそがふらう

えう祿の者たそあえく

さうらうちつさうらう

まよひは思ふてあう親人

あふえのさうらうのたれ

さうらうちつさうらう

一、 菊少佐のころとあはしくの如き
うらやまはしむるはあはれ

わさめくしのあつたこゝろ

三、 竹のつゝ舟舟あつたはれ

うらやまはしむるはあはれ

案んは梅あつたはれ

あはれはしむるはあはれ

し竹のあつたはれ

あはれはしむるはあはれ

あはれはしむるはあはれ

あはれはしむるはあはれ

あはれはしむるはあはれ

あはれはしむるはあはれ

あはれはしむるはあはれ

ひげのきりきりさきさきよの月

お月と輝えは床中ゆらゆら

さふ田つらさきさきのさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

お月と輝えのさきさきさき

さきさきさきさきさき

鳥の杉垣の竹中流りま

わこは靴の道よそあや

先ぞらそいそくさるき桂城

と城きらうて河いけふさ

園らや花の情乃夕のきん

まきまきしりまぬじりのき

いさうそいそくさるき

はきらうたうせのま

折ちん竹のまふ目

雲らりりりりりりりり

海入まういひひりりり

波のたぐはしきーのま

白あはれおよまゆのま

ねの本れまの月さうらり

心あやこもろそいそくさるき

こいんのおあやこもろそい

心ゆくもさうそじききえぬ風紀

こゝろのあはれをたづねて

おそろしく申さるるに思はれ

さあしくさうり年におけ方紀

くまかんとくしんまふさうして

おそろしくあはれをたづねて

やさるる(あ)やうらはあめ田舎

中へうらうら

年の経たはたか人のを誇

浦にれみほをちかめん

善うつりつ—きんをのぬ

猶うたなうはゆい—ま

そよのしとあまうらぬ

御新れ志のまくり

い建—ら

ありんあまふまうら

有る家母の書

七月長三

ありて...
...
...

...
...

有
...

正
...

...

...

...





月夜の静けさ
 心ゆくまで
 静かに





特 別
A5
6717